

プロジェクト課題活動実績

課題名：拠点団地を起点とした持続可能なかんきつ産地の再生

柳井農林事務所農業部 チーム員：岡崎芳夫、弘中純子、迫村竜也、中村友香

<活動事例の要旨>

高齢化と担い手不足が進み、生産量の減少が続く周防大島町ではかんきつ産地維持のため、担い手の育成が急務となっている。また、効率的かつ高品質果実生産が可能となる園地整備を推進していく必要がある。

そこで、新たな大島みかん産地再生プランの具現化と担い手確保体制の整備、柑きつ拠点団地整備を推進するとともに、山口県オリジナル柑きつ「せとみ（ゆめほっぺ）」の生産量確保に向けて取り組んだ。

1 普及活動の課題・目標

周防大島町におけるかんきつ産地は、後継者不足により、生産量・販売高ともに減少が続き、維持が難しい状況となっている。そのため、「大島かんきつ産地継承夢プラン」策定した。このプランを具現化するため、新規就農者の受入体制整備や柑きつ経営モデルの実証を目的とした JA 出資法人の設立支援、担い手の経営安定、拠点団地での効率的営農体制整備、高品質安定生産技術の拡大普及を進めていく事としている。

2 普及活動の内容

(1) 新たな大島みかん産地再生プランの策定

- ・「大島郡柑橘振興協議会技術連絡」において、毎月、「大島かんきつ産地継承夢プラン」の進行管理を実施した。

(2) 担い手確保体制の再構築・担い手確保体制の整備

①新規就農者受け入れ体制整備

- ・研修機能及びかんきつ経営モデル実証を目的とした JA 出資法人を関係機関で協議し、先進法人を視察した。

②研修中の支援体制の整備

- ・関係機関と協力して、研修生の技術及び農地取得、営農計画作成を支援した。

③労力補完体制の仕組み構築

- ・情報誌や新聞、ラジオ放送で新規サポーターを募集した。

(3) 担い手の経営安定に向けた定着支援

①新規就農者の育成

- ・新規就農者に対し関係機関で定期的に巡回し、技術及び経営指導や生活状況を確認、指導した。
- ・個別巡回を行い、技術指導を実施した。

②農外参入企業の定着

- ・参入企業に対し、基盤整備園地の植栽及び管理方法を指導した。

(4) かんきつ拠点団地整備推進

①整備実施地区における営農支援

- ・マルドリ施設が整備された畑能庄地区及び上田ヶ丘区画整理園地において、灌水

時間や液肥量を指導した。

②整備推進地区における取組支援

- ・基盤整備の事業採択が承認された戸田地区で新規就農者への事業参入を支援した。
- ・基盤整備に参入する新たな担い手を戸田地区役員及び関係機関で協議した。

③新規整備候補地区の誘導

- ・日良居地区において、柑橘生産組合役員、周防大島町及びJAと園地地図を作成し、栽培園地と耕作放棄地の現状を確認した。

(5) 「ゆめほっぺ」の生産量確保に向けた条件整備

①せとみの面積拡大

- ・新たに植栽された区画整理園への苗木管理を指導し、排水対策として溝上げ畝立てを実施した。

②高品質安定生産技術の普及

- ・基盤整備園地や新規就農者を中心にマルドリ栽培、ハウス栽培を推進した。
- ・摘果講習会の開催及び着果量調査を実施した。着果量調査では、着果状況を札に表示し、着果過多園は摘果指示を出し、適正着果に努めた。

③販路拡大

- ・低温貯蔵した果実を県内量販店において試験販売した。
- ・JA山口大島、柳井・大島地域「地産・地消」推進会議、全農山口県本部、周防大島町及びやまぐちの農林水産物需要拡大協議会が主体となり、京浜方面への初出荷に合わせ、PRイベントを開催した。

3 普及活動の成果

(1) 新たな大島みかん産地再生プランの策定

- ・「大島かんきつ産地継承夢プラン」の関係機関で進行管理することで、課題や今後の方針を共有化できた。

(2) 担い手確保体制の再構築

①担い手確保体制の整備

- ・JA出資法人を平成29年10月設立で調整している。

②研修中の支援体制の整備

- ・構築した研修体制を活用して、青年就農給付金準備型1名、営農支援員2名が現地研修を実施した。
- ・準備型1名は研修中に農地を借りることができ、29年4月から就農する。営農支援員1名は準備型に移行し、受入農家で研修することとなった。

③労力補完体制の仕組み構築

- ・新規71名がサポーターとして活動し、円滑な運営が可能となった。

(3) 担い手の経営安定に向けた定着支援

①新規就農者の育成

- ・平成27年度に青年就農給付金準備型で研修していた1名が青年就農給付金開始型活用して、就農した。
- ・認定就農者13名のうち、2名は基盤整備への参加などで園地集積を進め、経営面積は3haとなり、ハウスやマルドリ施設を導入するなど経営基盤を整え、経営は

安定した。

- ・生活改善士や新規就農者に対して生活面のアドバイスや意見交換する交流会が定着し、参加者も増加した。

②農外参入企業の定着

- ・1企業が久賀の上田ヶ丘地区において、「せとみ」のマルドリ栽培を導入した。



新規就農者の「せとみ」ハウス



区画整理園に苗木を新植する新規就農者

(4) かんきつ拠点団地整備推進

①整備実施地区における営農支援

- ・マルドリ施設を整備した畑能庄及び上田ヶ丘区画整理園地では干ばつにも関わらず、苗木は順調に生育した。畑能庄地区の区画整理園は29年度から収穫可能となる。

②整備推進地区における取組支援

- ・戸田地区で基盤整備事業が承認され、事業が着工された。
- ・戸田地区において、今年度、1名新規就農した。また、平成30年度就農予定者が戸田地区で準備型による研修を行うことが決まった。

③新規整備候補地区の誘導

- ・平成29年から日良居地区において「山口県農業生産力等機能強化対策事業」を活用し、基盤整備協議に入ることが決定した。



畑能庄マルドリシステム



久賀の上田ヶ丘地区区画整理園

(5) 「ゆめほっぺ」の生産量確保に向けた条件整備

①せとみの面積拡大

- ・久賀の上田ヶ丘地区における区画整理園に41aが新植された。

②高品質安定生産技術の普及

- ・「せとみ」ハウスは単県事業を活用し、今年度10aが導入された。また、周防大島

町もハウス個人負担上乘せ補助の事業を新設し、受益者の負担を軽減させることでハウス導入推進を後押ししている。

③販路拡大

- ・低温貯蔵の「せとみ」は、「ゆめほっぺ」率は95%と大半の果実が「ゆめほっぺ」で出荷できた。アンケート調査で好評であったことから、5月以降の出荷は有望であることが確認でき、JAでは低温貯蔵庫の導入することとなった。
- ・京浜PRイベントでは、いずれの関係者からも「美味しい」と高評価を得ることが出来て、京浜地区での引き合いが強まり、高単価に繋がった。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 新たな大島みかん産地再生プランの策定

- ・プラン実現に向けた施策の実行及び進行管理を行う
- ・イノシシ対策を協議し、有効な施策を実施する。

(2) 担い手確保体制の再構築

- ・JA出資法人の設立、運営を支援する。
- ・準備型1名、支援員2名の研修と就農準備を支援する。
- ・就農パンフレットを作成し、首都圏での就農ガイダンスやホームページ等を活用した新規就農者の確保対策を検討する。

(3) 担い手の経営安定に向けた定着支援

- ・新規就農者には一層の技術力向上、住居や初期投資負担の軽減及び持続的経営可能な条件整備、特に優良園地集積による規模拡大を進めていく。
- ・JA青壮年部の活動を支援し、若手農家の相互研鑽、技術向上を図る。
- ・サポーターや研修生が滞在できる宿泊施設を検討する。

(3) かんきつ拠点団地整備推進

- ・マルドリ導入済みのエリアでは、成木となり出荷が開始されることから、効率的なかん水及び液肥の施肥体系を検討し、実証する。
- ・戸田地区における担い手の集積エリアを検討し、担い手が継続可能な営農計画の作成を支援する。また、近年増加しているイノシシ害について、戸田地区で集落点検を実施する。
- ・新たな推進エリアでは、地区生産者の合意をとり、事業実施地域を選定する。

(4) 「ゆめほっぺ」の生産量確保

- ・新改植の推進、マルドリ栽培及びハウス導入の推進を図る。
- ・柑きつ振興センターとともに低温貯蔵による端境期出荷技術を確立し、低温貯蔵庫新設を支援する。
- ・京浜地区における販路の確保を支援する。